

オキヒラシイノミガイ *Pythia cecillei* (Philippi, 1847) (オカミミガイ科)の産卵記録

川内野 善 治¹⁾

Spawning record of *Pythia cecillei* (Philippi, 1847)

Yoshiharu KAWACHINO¹⁾

分 布

瀬戸内海西部，九州北部，中国南部．

生 息 環 境

図鑑では，本種の生息環境は潮上帯のアシ原や草本の根元などとされている．しかし，著者が確認している県内の4箇所の生息地では，アシ原が生息地となっている場所は1箇所のみで，他はヒトモトススキの根際，潮間帯上部の土壌の上，潮上帯の堆積した落ち葉の中，漂着した流木の下部やビニール製の肥料袋の下などで見られることが多いが，オカミミガイの様にじゅくじゅくと湿った場所ではない．

また，海水がほとんど上がってこないと思われる場所の板切れの下などでも見られる．

本種の状況

生息地は極めて限られており，長崎県では絶滅危惧 A類に選定されている．環境の変化に伴う絶滅の危険性に加え採取圧による危険が非常に高い．

県内の生息地の一箇所で，モニタリングを続けているが，今のところ開発などによる環境の変化による影響は受けていないが生息環境によってはイノシシの掘り返しの影響を大きく受けている（食べているのかもしれない）．

観察した生態の一部

冬期は石の下などで冬眠するので，例え個体数の多い生息地であってもなかなか探すことは出来ない．活発に活動するのは5月～10月で，特に湿度の高い梅雨期に最も活発に活動し，交



図1 交接



図2 ハマボウに登る

¹⁾〒859 6405 長崎県佐世保市世知原町開作427 5

接も見られる(図1)。

蒸し暑い日の早朝にはアシ・ハマウド・ハマボウ等に登りハマボウでは1m程の高さ(図2)まで登っているのを見ることがある。



図3 産卵



図4 産卵(拡大)

産 卵

2010年7月19日の9時頃に満潮時には下部が海水に浸かって濡れた枯れ木の上で、やや湿った部分に2個体が産卵をしているのが見られた(図3)。

卵は白色で透明なゼラチン状物質に包まれ、おおよそ幅1ミリ、長さ1センチのものが多かったが、団子状のものもある卵塊である(図4)。

ただ、1個体が産卵する卵塊の数は不明でこの時見た卵塊が2個体のものか、他の個体が産卵後に産卵場所から離れたのかは分からない。

同科のよく似た環境に生息するシノミミガイが湿った石に泥状に包まれた卵塊を渦巻き状に生み付けるのに比べると、産卵場所や形態は大きく異なっている。

文 献

- 奥谷喬司(編著)2000. 日本近海海産貝類図鑑. 東海大学出版会 817pp
山本愛三・魚住賢司 1976. 対馬の非海産貝類目録. 対馬の生物. 長崎県生物学会 877pp
増田修・内山りゅう 2004. 日本産淡水貝類図鑑.(②汽水域を含む全国の淡水貝類). 株式会社ピーシーズ 122pp